

柑芦会東海支部新支部長挨拶

柑芦会東海支部会員の皆様、あけましておめでとうございます。

当期新支部長を仰せつかりました大学1 8期卒中村博宣です。歴代支部長はそうそうたる実力ある諸先輩が努められ、本来は小生の様な非力で浅学非才の輩が努める役職ではないと思っておりますが、会の課題が私達「団塊の世代」が役割を果たす事を求められているのだ、と考えお受けいたしました。

もとより非力な小生が柑芦会東海支部の課題をすべて解決していけるとは考えておりませんが、会員の皆様・役員の皆様とともに一つでも解決し、集まる会員が有意義に楽しんでその結果どんどん盛会になっていきますよう会の運営を進めてまいりたいと思います。

さて「柑芦会」とは何か。香村先輩の奥様が遺産として会本部に寄贈された「香村資金」の用途についての課題は嫌でもこの問題を問いかけます。

ある人は、同じ学舎で学んだ友が先輩・後輩を問わず、現在の活躍や健康を讃え楽しく交流する場である、と考えられ、またある人は同じ経験をした仲間が情報交換をして現在の仕事・生活に役立てる場だと考えられ、また和歌山大学の後輩をサポートする役目をもつ会だとか、ただ単に同じ基盤を持つ人が楽しく集まればそれでいいではないか、と考えられている人もいるでしょう。

しかし、年々同窓生は増えて行くに拘わらず、「集まる」人数は増えない。特に新しい期の人が集まらない。「集まる」意義が見いだせないのではないかと？

この課題は今後のこの「柑芦会東海文部」の存続や「全学同窓会」に関わる事ですので、特に新役員の方々とともに真剣に取り組んで行きたいと思っております。戦前世代の人達の価値観が「何が正しいか」という点にあるのに対して、戦後私達「団塊の世代」は生き抜くために「役に立つか、立たないか」と育ち、また豊かになった次の世代は「好きか嫌いか」そして「面白い面白くないか」と言う価値観まで変遷してきたように思います。時代におもねる訳ではありませんが、これらの価値観も取り入れ「楽しく、役に立ち、皆さんに好きになってもらえる」会でありながら、「古き良き伝統をどこかに感じさせる」そんな「柑芦会東海文部」運営ができれば、と思っております。

「香村資金」の用途や「全学同窓会」の課題も皆様と共に意見を交換し、本部に「東海支部」としての意見を申し上げてまいりたい、と思っております。

会員各位のご参加、ご協力を心からお願い申し上げます。

平成23年1月5日

中村 博宣